

参考：開講時予定内容

講義名	対) 財務会計特論		
担当教員	孫 美灵		
開講期・曜日・時限	前期 木曜日 4時限	授業形態	講義
履修開始年次	1年生	単位数	2
主題と概要			
<p>本講義は財務会計の個別テーマを深く掘り下げるよりも、財務会計の全体像を提供することを目的としています。まず、財務諸表の中の最も代表的な計算書である貸借対照表と損益計算書について、資産・負債・純資産、収益・費用の順で大きな枠組みを理解します。その後、財務諸表分析でよく使われるいくつかの指標について紹介し、実際企業の財務諸表を使って計算をします。最後は、会計分野の文献を精読し、会計研究における研究テーマ、研究方法などについてイメージをつかんでもらいます。</p>			
到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・財務会計の基本的な概念と全体像が理解できます。 ・基本的に財務分析の手法が理解できます。 ・会計の文献を読むことで、会計分野の研究についてある程度理解できます。 			
提出課題			
講義内容によって、課題提出を求める場合があります。また、会計文献の精読は、受講生の発表形式で行います。			
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック			
課題については、解答と解説を配布するもしくはコメントする形でフィードバックします。			
評価の基準			
定期試験は実施せず、提出した課題（60%）や発表（40%）などで総合的に評価します。			
履修にあたっての注意・助言他			
日商簿記検定試験3級に相当する知識を有することが望ましいです。			

教科書				
・使用しない。				
プリント資料及び参考文献				
<p><教科書> 指定テキストはございません。講義中、資料を配布します。</p> <p><参考文献> 講義中、受講生の基礎知識に応じて適宜紹介します。</p>				
授業計画				
<p>第1回 ガイダンス・貸借対照表 第2回 資産1 第3回 資産2 第4回 負債1 第5回 負債2 第6回 純資産 第7回 損益計算書 第8回 収益・費用の認識 第9回 連結会計 第10回 企業結合 第11回 財務分析1 第12回 財務分析2 第13回 財務分析3 第14回 会計文献の精読1 第15回 会計文献の精読2</p>				
以上の計画は、受講生の簿記知識、興味によって多少変更する可能性があります。				
授業形態（アクティブ・ラーニング）				
<input type="radio"/> ア：PBL（課題解決型学習）				イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート				エ：グループワーク
<input type="radio"/> オ：プレゼンテーション				カ：実習、フィールドワーク
<input type="radio"/> キ：その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）				
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間				
事前に配布した資料や指示に従って予習（2時間）を行ってください。また、講義終了後は当日内容の要点を整理し、理解を定着させるために復習（2時間）を心掛けてください。最後の会計文献精読の部分では、発表するための事前準備に相当な時間がかかることを想定しておいてください。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連				
卒業認定・学位授与の方針(1)-1との関係：到達目標を達成することで、企業会計における科学的・方法的な理解の習得に貢献できます。				
卒業認定・学位授与の方針(1)-2との関係：到達目標を達成することで、流通科学諸分野の財務的側面から実践的・課題解決的な能力を身に付けることができる。				
卒業認定・学位授与の方針(1)-3との関係：流通科学分野の修士論文執筆あるいは課題研究における財務的視点を養うことで、当該DPに貢献できる。				
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述				
双方向授業の実施：講義中、教員からの質問に対し自らの考え方を整理し、発言する機会はほぼ毎回あります。				
ICTの活用：対面授業の中でのICTの活用は今のところ予定していません。				
実務経験の有無及び活用				
実務経験はありません。実務経験が本講義の内容と直接関連するわけではないが、受講生に刺激になると思われるエピソードがある場合は適宜紹介していきたいと思えます。				
備考				
新型コロナウイルス感染症の状況によりシラバスが修正される可能性があります。				